



大崎町協力隊通信 vol. 33

大丸小学校5年生 総合学習「守ろう！みんなのふるさと 竹の秘密」

2025年度、大丸小学校5年生8名とともに、竹林整備をテーマにした総合学習（全7回・17時間）を実施しました。竹は「やっかいな存在」から「地域の宝」へ。子どもたちの17時間の探究学習をご紹介します。

① 学びのスタート（7月）

竹とは何か？ なぜ竹林整備するの？

第1回は、竹や竹炭の基礎学習と竹灯籠づくり。

「竹って木なの？」「どうして増えすぎるの？」

たくさんの疑問から探究が始まりました。

竹灯籠づくりにも挑戦。真剣なまなざしが印象的でした。



② 実践へ（10月～2月）

最初の竹林整備体験は楽しい、美味しい経験になりました。

竹を切り、炭にし、その炭火でバームクーヘンを焼きました。炭火でバームクーヘンになるまで、何層にも焼き重ねました。

竹が炭となり、農地に活かされ、食につながるという地域資源の循環を体で学びました。さらに、炭によるCO₂削減についても学習。

2月には宮園竹林整備プロジェクトのメンバーと本格的な竹林整備をおこないました。集落の人や障がい者の方々と一緒に作業しました。



③ 子どもたちの声

竹へのイメージが変わった

最初は「竹は邪魔なもの」という声もありました。

しかし最終回では、「工夫すれば役立つ資源になる」、「地域には環境に優しい活動をしている人がいてすごい」と語っていて、授業や体験を通じた気づきも生まれたようです。

なにより「竹の秘密を教えてくださいありがとうございます」

その言葉が、この1年の成果でした。



④ 学びは地域の未来へ

地域と福祉がつながる取り組み

授業を通して伝えたかったのは、竹林整備が単なる作業ではなく、環境・地域づくり・持続可能性をつなぐ取り組みであるということです。また、竹福連携によって障がいのある方の働く場が広がり、地域コミュニティの再生にもつながっていることも紹介しました。

「小学5年生にはまだ早いのでは」という先入観を捨てて授業に取り組みましたが、子どもたちは真剣に向き合い、多くの気づきを得てくれました。この経験を、新年度の学びにも生かしていきたいと思えます。



【お問い合わせ】 農林振興課 林務水産係（内線506） 担当：鶴野、西野 ☎476-1111（平日8:30～17:15まで）